

## 「生活・職場・雇用を守る活動を!!」 2010.12.3 第3回執行委員会

JAM山陰は、「第3回執行委員会」を松江市労働会館にて開催。第17回統一地方自治体選挙や2011年春闘などの課題について協議した。

多久和執行委員長は冒頭のあいさつで「現在の景気は、日本を含む先進国が依然厳しい状況であり、新興国の需要によってかろうじて支えられており先行きは不透明である。こういう状況の中では、生活・職場・雇用を守るための活動に力を傾注すべき。また、来年の統一地方選挙では、各地域からわれわれの代表を県議会へ輩出する取り組みをお願いしたい」とあいさつした。

統一地方選挙の取り組みでは、連合鳥取の推薦決定を受けて「鳥取県議会議員選挙の推薦予定候補者」を決定。鳥取市、米子市選挙区においては複数の予定候補者があり、今後鳥取地協内で調整・決定することとした。

また、「JAM山陰2011春闘方針の考え方」も確認され、後日行われる2011年度春闘研修会の意見も含め検討することとなった。このほかでは、企業・労組近況報告がされ、各単組の抱える問題点を執行部が共有するとともに、対策について話し合われた。



▲執行委員会での年末一時金状況報告

## 「今後の財政のあり方を検討」 2010.12.3 第1回総務財政委員会



JAM山陰は、第1回総務財政委員会を開催し、組織人員減少により交付金の減少が想定されることから、今後の財政全体のシュミレーションによる予算の考え方などについて検討を行った。

会議では、2011年11月末現在の度予算執行状況の報告や、各地協の“外部役員就任状況調査”のシート様式確認と期限設定などを決定。また協議事項では、2012年度以降の大幅な収入減が危惧されており、予算シュミレーションを基に経費節減と各費目の配分比率などに具体的に見直しが急務であることを確認した。

## 「統一要求日の重みを重視」 2010.12.3 第1回労働政策委員会

JAM山陰は、2011年春季生活闘争の方針策定を主議題とした「第1回労働政策委員会」を開催。堀内労働政策委員長(三菱農機労組)は「景気は先行き不透明で、2011春闘も厳しい状況が予想されるが、全ての単組が取り組むべき課題について活発に意見交換したい」とあいさつした。

会議では、今年度に調査した“JAM組合員全数調査”にて18歳～50歳の所定内賃金の第一四分位を基に算出した「JAM山陰ミニマム基準」の考え方が協議され「昨年比で若干水準が下がるものの実態を反映したミニマム基準とする」で取り組む方向性を確認した。

また、毎年要求書を提出する日程にバラつきがあるので、今回は、全単組が統一要求日を重視し、企業状況が厳しい単組でも必ず何らかの要求書を提出し、労使が話し合いをする機会をつくり企業状況を把握することを確認。各単組の個別課題は、JAM山陰の確認と了解の下で進めることも確認された。

## 「参加しやすく楽しい活動を」 2010.11.20 青年協「第12回総会」

JAM山陰青年協議会「第12回定期総会」が、松江市の労働会館で開催され、各単組から総会代議員ら42名が出席した。宮野浩二議長(三菱農機労組)は、「昨年議長に就任して青年協活動に携わるまでは、自分も組合活動がどのようなものかよくわかっていなかったが、1年間活動してようやく中身や意味が見えてきたような気がする。これからは参加しやすく楽しみながら組合活動を理解できる機会をつくり、多くの仲間に参加してもらいたい」とあいさつ。来賓には、JAM山陰の細木副委員長と組織内議員の酒井湯梨浜町議、森本東出雲町議が出席し祝辞を述べた。

今年度は、役員改選ではなかったが、組織事情により根鈴副議長(明治製作所労組)、川野副事務局長(JAM山陰)



▲左から来賓の方々と、宮野議長のあいさつ、ガンバロー三唱の様子

## 「更なる連携強化を」 2010.11.19 松江地協「2011年度総会」

JAM山陰松江地区協議会は、松江市労働会館にて「2011年度総会」を開催。各構成単組から約30名が出席し、2011年度活動方針や予算と役員体制などを決定した。錦織副議長(菱農エンジニアリング)は「今年は参議院選挙、東出雲町議選挙と選挙一色の活動だった気がする。民主党に逆風が吹く中、津田やたろう議員は再選を果たす事が出来たが、選挙区は自分たちの力不足で残念な結果になった。これを教訓に次回は必ず勝利できるよう活動したい。また、現在各企業は非常に厳しく、何があってもおかしくない状況にある。企業の存続と発展への対策・対応が求められている。地協やJAM山陰と連携強化と素早く対処することが重要である」とあいさつした。来賓には、JAM山陰の多久和委員長と組織内議員の森本東出雲町議、推薦議員の斉藤松江市議、また来春の県議選で松江選挙区から出馬を予定している岩田ひろたか予定候補が臨席し祝辞を述べた。総会における議案はすべて承認され、松江地協2011年度の活動がスタートした。



▲総会であいさつする錦織副議長

## JAM山陰の構成単組の活動紹介

### 「組合の必要性を職場へ」 2010.11.20 渡部製鋼所労組「2011代議員研修会」

渡部製鋼所労組「2011年度代議員研修会」が斐川町にある四季荘で開催され、執行部・代議員ら23名が出席した。鬼村執行委員長は「毎年恒例の代議員研修会を実り多いものにするため、活発な意見や質問をぶつけて欲しい」とあいさつ。続いて、JAM山陰の川野書記長



が「JAMの概要と共済について」のテーマで講演し労働組合の課題とJAMの活動、共済のメリットについて説明した。

休憩をはさんで行なわれたグループ討議では「今の労働組合に欠けているもの」のテーマで各班とも熱心な討議が行なわれた。グループ発表に対して「労働条件の前進が困難な時こそ丁寧に説明し組合員の理解を得よう。組合員と一体感のある活動をめざそう」とアドバイスした。限られた時間ではあるが、有意義な研修会となった。

### 「しっかりと活動へ反映！」 2010.12.4 日圧ST労組「代議員研修会」

日圧ST労組の「代議員研修会」が、日圧ST食堂で開催され、執行部・代議員ら26名が出席。小椋委員長は「参加した皆さんが、執行部や代議員は何をするのか、組合員が豊かになるにはどうすればいいのか、考える機会としてほしい」とあいさつ。続いて、JAM山陰の川野書記長から「労働組合の果たすべき役割」について講演。JAMの活動、日圧ST労組の地域における存在感や立場と役割、労働組合の直面する課題などについて説明。参加した代議員は、メモを取るなどして熱心に説明を聞いていた。続いて、JAM共済の制度やメリットについても紹介された。

最後に、小椋委員長から「今日学んだことを、職場でしっかりと生かして活動してほしい」と要請した。

